

会 議 録

会 議 の 名 称	平成30年度第3回史跡大森勝山遺跡整備指導委員会
開 催 年 月 日	平成31年2月12日 (火)
開 始 ・ 終 了 時 刻	午前10時から午前11時30分まで
開 催 場 所	岩木庁舎2階会議室2
議 長 等 の 氏 名	委員長 工藤竹久
出 席 者	委員長 工藤竹久 委員 岩瀬直樹 委員 関根達人 委員 須藤司 オブザーバー 県教育委員会文化財保護課 斉藤主査
欠 席 者	委員 岡田康博
事 務 局 職 員 の 職 氏 名	文化財課長 成田正彦 同課課長補佐 神弘樹 同課主幹兼埋蔵文化財係長 岩井浩介 同課主事 東海林心 同課主事 佐藤信輔 建設政策課 朝倉主査 (株)空間文化開発機構 田口研究員
会 議 の 議 題	(1) 史跡大森勝山遺跡整備事業について (2) その他
会 議 結 果	別添議事録のとおり
会 議 資 料 の 名 称	
会 議 内 容 (発 言 者 、 発 言 内 容 、 審 議 経 過 、 結 論 等)	別添議事録のとおり

【会議内容要旨】

議題（１）史跡大森勝山遺跡整備事業について

事務局より、前回からの変更点について説明。

関根委員 : 環状列石復元に使用する樹脂モルタルの色はどうなるのか。

田口研究員 : 発生土を混ぜ込み、なるべく周辺へ合わせるようにする。

工藤委員長 : 周辺と見分けはつくのか。

事務局 : 当初はつくが、経過で色味はなじむと思う。

関根委員 : 維持管理はどうなるのか。

事務局 : 現状は刈り払い機を使用しているが、いずれは乗用草刈機を使用できるようにしたい。列石周辺はナイロンコードの刈り払い機もしくは手作業で行う。

関根委員 : モルタルの断面はどのようなものか。

事務局 : 台形状となる。

関根委員 : 降雪地においてもモルタルは使用されるのか。

田口研究員 : 事例はないが、形状・質的に問題ないかと思われる。

関根委員 : 隙間ができることはあるのか。

田口研究員 : 無いと思う。

工藤委員長 : 掘方にこだわる必要はあるのか。

事務局 : ほとんど掘方を使用した組石がないので、あくまでも参考としている。実質は余幅でみている。掘方は当時の土工の跡でもあるので、まず掘方を参考とした、との表現をしている。

工藤委員長 : 施工上モルタルの幅をこの程度にした、という基本方針の方がすっきりすると思う。

関根委員 : 組石を修理する時は、組石全体を直すのか、それとも個別に直すのか。

- 事務局 : 石材は差し換え可能。個別での対応となる。
- 関根委員 : 樹脂モルタルよりも石材のほうが弱いかもしれない。
- 事務局 : 控えの石材を保管しておきたい。
- 工藤委員長 : 基本は組石の形状に沿った施工となり、草が生えると盛土とモルタルの接地面が隠れるということか。
- 事務局 : その通りになるかと思われる。
- 工藤委員長 : 17 頁の説明板に使うサインホーローは、他に使用事例はあるのか。
- 事務局 : 無いが耐久性は良いと考えている。堀越城でも類似の仕様で、平成 31 年度に整備予定。
- 工藤委員長 : 根城では陶板を使用している。半永久的と言われているがそうでもない。
- 事務局 : 堀越城でも当初は陶板の予定だったが、コストがかかる。また、耐用年数が経過すると、内容がもたなくなる。次期整備を考えると 15~20 年程度保てばよいと考えている。
- 工藤委員長 : 木道には杉材を用いるとのことだが、杉材は軟らかい印象がある。
- 事務局 : 他の木材としてヒノキ、ヒバがあるが高価。
- 工藤委員長 : 杉材の耐用年数は。
- 田口研究員 : 保存処理をして 10~15 年程度。ヒバは保存処理剤が入りにくいということもある。
- 工藤委員長 : 基礎鋼材の上に杉材をのせるということか。
- 事務局 : その通り。
- 工藤委員長 : ヒバだと音がするのではないか。
- 事務局 : 踏音はするだろう。

関根委員 : 日本海側沿岸で、木道を整備している遺跡を多く見てきたが、割れたり、倒れたりなど破損してそのままのところもある。木材以外はありえないのか。

事務局 : 疑似木などがあるが、プラスチックの雰囲気が残る。

関根委員 : 値段に違いはあるか。

事務局 : 疑似木の方が高い。今回の整備としては木材を使用し、次期整備でプラスチック等の使用もあり得るかと思う。杉材は、破損したときに備え、市単費で杉の交換材を持っておき、巡回等を行い、加工しなくても臨時的に杉材の入替などの対応を検討したい。

工藤委員長 : 活用がうまくいくと、維持管理もうまくいくと思われる。

議題（２）その他

事務局より、今後の計画について報告。

工藤委員長 : 県文化財保護課の斉藤さんにお伺いしたいが、国の補助は厳しい状況か。

斉藤主査 : 少額のものについては満額交付されるが、1,000万円以上の事案については、一律50%カットされている。

工藤委員長 : 世界遺産との絡みはどのようになるか。

事務局 : 現在、国内推薦はほぼ確実と見られているが、順調にいくと2020年にイコモスの現地調査が入り、2021年に世界遺産委員会が開かれる。

工藤委員長 : 公開はどうするのか。

事務局 : 業者と調整しながら、工事中でも公開していきたいと考えている。基本的には整備中も公開を前提とし、整備現場体験学習などで地元小学校と連携していきたい。

工藤委員長 : 報告書はどのようになるのか。

事務局 : 平成34年（2022）に整備報告書、平成35年（2023）にガイドンス施設整備報告書を刊行する予定。

工藤委員長 : 今後の事例としても、経過を押さえてしっかりとやってほしい。他に委員から何かないか。

須藤委員 : 水道はどこからどこまで引かれるのか。

事務局 : 市道から上水を引いてくる。当初は中水という案もあり、遺跡近くを流れる大森川や地下水をくみ上げるということも案にあったが、当市の上下水道部に協議したところ、衛生管理や施設整備でイニシャルコスト、ランニングコストともに、かなりの高額になるとのことであり、基本的に上水を引き込むことで検討している。